

Kagawa University 88 Points of Interest (香川大学 88 カ所の魅力)

代表者 村 林 真 衣 (工学研究科知能機械システム工学専攻 1 年)

1. 目的と概要

本プロジェクトでは、「四国 88 カ所」を参考に、学生目線で見えた香川大学の魅力を中心に「Kagawa University 88 Points of Interest (香川大学 88 カ所の魅力)」として学内外の人に発信する。香川大学は 4 カ所のキャンパスに分かれているという特長から、学生や教職員は所属以外の学部について詳細に知る機会が少なく、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大防止目的のため、各キャンパスへの行き来はさらに減少している。そこで、本プロジェクトにより、大学全体や各キャンパスの持つ特色を学生目線で伝えることで、学生や教職員に香川大学について俯瞰的に理解し、親しみを持ってもらうことを目的の一つとした。また、地域の方や海外の方に向けて、香川大学の歴史、各キャンパス内やその周辺の魅力あるスポットを特集し、地域や海外との結びつきも視野に入れた、香川大学の魅力を日本語・英語にて発信する。

2. 実施期間 (実施日)

令和 2 年 9 月 1 日から令和 3 年 3 月 3 1 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトの目的は、香川大学の魅力を 88 カ所伝えることであるため、初めに 88 カ所の案出しと決定を行った。決定方法はプロジェクトメンバーにより魅力をピックアップした後、0~3 段階 (0 が載せるべきではないと思う魅力、3 が絶対載せるべきだと思ふ魅力) で評価、総計数が高い魅力を選出した。選出された各キャンパスの魅力を表 1 と表 2 に示す。許可が得られていない魅力も含まれているため、仮決定である。幸町キャンパスでは、3 つの学部が集まっていることからどのキャンパスよりも多くの魅力が見つかった。特徴としては、科学体験フェスティバルやわくわくコンサート、チャリティーサンタなど、学生がメインで活動するイベントが多く挙げられた。医学部キャンパスでは、賑やかな市内と遠く離れて勉強に集中しやすい環境や、自習室が多いこと、

学生研究室に通える，などが挙げられた。農学部キャンパスでは，香川大学ワインや希少糖，さぬきよいまいなどが挙げられた。工学部キャンパスでは，ものづくり工房や微細加工プラットフォームなどが挙げられた。多くの学部に共通する特徴として，シェアバイクや無料シャトルバスなどの交通手段の利便性が挙げられた。

88カ所の魅力を決定した後，写真などの素材集めとインタビューを行った。多くの魅力に対して許可を得る必要があることから，現在は全ての魅力のうち，59%の許可が得られている。許可が得られた魅力については原稿を作成した。掲載項目の原稿例として「ものづくり工房 Manufacturing Workshop」を図1に示す。原稿には主に3つ役割がある。1つ目は，許可を得た写真を掲載し，イメージを伝えること。2つ目は，項目の概要と魅力について説明すること（日本語と英語）。3つ目は，students' perspectiveとして，学生からの目線で見えた魅力を説明すること（日本語と英語）である。

発信には，紙媒体のパンフレットとWebサイトを用いた。作成したパンフレットを図2, 3に示す。パンフレットは日本語と英語の2種類作成した。パンフレットの裏面に各キャンパスのQRコードを添付し，それを読み取ることで，各キャンパスの魅力の紹介ページに移動できるような仕組みとなっている。

今後の計画としては，全ての魅力が揃った時点で，各キャンパスや地域の店舗などにパンフレットを配布・設置し，本学学生，海外交流先，留学生・在校生・地域の方々の手に渡るように務める。また香川大学のホームページ，インターナショナルオフィスのホームページやSNS (Facebook, LINE など)を用いて宣伝する。今回のKagawa University 88 Points of Interest (香川大学 88カ所の魅力)の何よりも大きな特徴は，学生目線で見えた魅力を伝えるstudents' perspectiveを加えたことである。

表1 幸町・医学部キャンパスの魅力（仮決定）

	1	博物館
	2	銅像（大平正芳・三土忠造・隈本繁吉）
	3	図書館
	4	四国グローバルリーガルセンター
	5	Global Café
	6	バリアフリー支援室
	7	未来からの留学生
	8	科学体験フェスティバル
	9	わくわくコンサート
	10	坂出・高松付属との交流
	11	讃どん
	12	瀬戸内地域活性化プロジェクト
幸町キャンパス	13	ベーカリーカフェSORAMI
	14	Leading Edge Issues in Kagawa University
	15	環境に配慮した学校運営
	16	中心街に近く便利な立地
	17	チャリティーサンタ
	18	直島地域活性化プロジェクト
	19	司法制度入門
	20	KAGAWA Maker
	21	TERASU
	22	DRI棟
	23	International Office
	24	公務員合格率が高い
	25	四国唯一の法学部.全国15の国公立大学法人の法学部で最も新しい
	26	English Café
	27	賑やかな市内と遠く離れて、勉強に集中しやすい
	28	自習室が多い
	29	養護教諭課程における教育学部生と合同の実習
	30	附属病院
	31	学生が研究室に通える
	32	保健師課程の離島実習
	33	周産期医学
	34	あかつき荘
	35	国際交流会館
医学部キャンパス	36	図書館
	37	国際交流が盛ん
	38	提携大学との協働によるオンラインクラス
	39	感謝の森
	40	医学部キャンパス正面・裏・両サイドの坂,看護棟からの景色
	41	看護棟1階ラウンジ
	42	ヘリポート
	43	宮脇書店
	44	動物実験棟
	45	いちご保育園
	46	駐車場が広い
	47	K-MIX

表2 農学部・創造工学部キャンパスとキャンパス共通の魅力（仮決定）

農学部キャンパス	48	付属農場
	49	香川大学ワイン
	50	収穫祭
	51	SUIJI
	52	庵治マリンステーション
	53	棚田の会
	54	希少糖発祥の地, 石碑
	55	希少糖生産センター
	56	地域に焦点を当てた講義
	57	講義の単位と同時に, 食品衛生管理者・食品衛生監視委員の資格を取得
	58	三木茂とメタセコイヤ
	59	果樹園芸研究所
	60	遺伝子研究施設の改築
	61	留学生の礼拝所
創造工学部キャンパス	62	アリの研究室
	63	連合農学博士課程
	64	4つの先端研究センター
	65	農学部専用のバス
	66	ASUS
	67	初の酒造用原料米品種「さぬきよいまい」の開発
	68	防災・危機管理コース
	69	工房造形メディアデザインコース
	70	ものづくり工房
	71	ピアサポート
	72	大学付近の施設が充実
	73	微細加工プラットフォーム
	74	英語サークル (ESSE)
	75	留学生との交流イベント
共通	76	讃工祭
	77	うどん湯切りロボット
	78	香川大学学生総合防災無線局
	79	国際インターンシップ
	80	学生プログラミング研究所
	81	シェアバイク
	82	栗林公園の入場料が無料
	83	無料シャトルバス
	84	DRI教育
	85	ビジネススクール
	86	瀬戸内国際芸術祭に参加
87	ネクストプログラム	
88	キッチンカー	

ものづくり工房 Manufacturing Workshop



学部の基礎教育としての実験・実習,あるいは,学生の課外活動としての「日常ものづくり」に加えて,新たな機能デバイス,センシングデバイス等の開発を目指す「先端ものづくり」のための環境を提供しています。

The facility provides an environment for experiments and practices to deliver basic education for undergraduates, "everyday manufacturing" as an extracurricular activity for students, and "advanced manufacturing" for the development of new functional devices and sensors.

Students' Perspective

加工に必要な機器が揃っているため,オリジナルの物を作ることができます。また,常に技術者が近くにいるため,わからないことがあれば質問でき,教育体制も充実しています。

All the necessary manufacturing equipment is there, so we are able to make original products. In addition, technicians are always nearby, so we can ask questions, and the training system is excellent.

図 1 原稿例



図2 パンフレット表（日本語）



図3 パンフレット裏（日本語）

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本プロジェクトは、現段階で一般公開されていないため、本学や地域社会等に与えた影響はない。そこで、一般公開後に期待される影響を下記に3つ示す。

1点目は、学生や教職員が互いの学部について知り、香川大学により親しみをもつことができる。香川大学が4カ所のキャンパスに分かれているという特長から、学生や教職員は所属以外の学部について詳細に知る機会が少ないという課題（欠点）がある。そこで、本プロジェクトにより、大学全体や各キャンパスの持つ特色・特長を学生目線で整理して伝えることで、新生などの学生や教職員が香川大学について俯瞰した理解を得ることができ、親しみを持つことができる。

2点目は、海外交流先、留学生・在校生・地域の方々に対して、香川大学を効果的に紹介する材料となる。現在、香川大学に在籍する学生の中には、これまでの留学経験や、大学外の方との関わりの際に、香川大学の良さを自分の言葉で十分に伝えられない体験をしている者も多く、各々がジレンマを感じていた。そこで、本プロジェクトで作成するパンフレットやオンライン情報はこのジレンマを解消し、明瞭かつ説明力をもって香川大学の魅力を伝えることが可能になる。学生目線で、各学部の特色や学びの楽しさ、希少糖などの世界に誇る研究活動、特徴のある施設および課外活動などを紹介するため、大学外の方にとっても、香川大学をより身近なものに感じてもらえることが期待される。

3点目は、香川大学の歴史を知ることである。決定した88カ所の魅力の中には、香川大学の歴史に関する博物館や、香川大学出身の著名人を顕彰する碑や像が含まれているため、香川大学の歴史的な歩みを改めて発信し、香川大学の70年の歴史を学ぶことができる。

本プロジェクトは、グローバル・カフェの学生委員会(Global Café Student Committee: GCSC)が核となって行うが、他の日本人学生や留学生も巻き込みながら、地域や世界に“学生目線”で香川大学の魅力を発信する。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトを通じ、香川大学の新たな側面に気付く機会となった。特に一年生は、新型コロナウイルスの影響により大学へ行く機会が少ない中での参加であったため、多くの魅力を知るきっかけとなった。一方で、大学について多くのことを知らない一年生だからこそ客観的に魅力を捉えることができ、大学生活に慣れた二年生以上にとっては当たり前になっている魅力に新鮮な眼差しで気づくことができた。また、本プロジェクトメンバーの特徴として、学年や学部が異なる点が挙げられる。よって、様々な観点からの発見や、所属以外の学部についても知る機会となった。今年度は対面で会うことができなかつたため、学年の違いは意識の共有等において課題ともなったが、改善の余地への気付きを得られた。

また、学生自ら許可取りを行うことで、メールの書き方や必要書類の作成等について学ぶことができ、今後の学生生活にとどまらず、社会人としても役に立つ知識や経験を得た。

本プロジェクトは構成メンバーだけでなく、インターナショナルオフィスの先生方、スタッフの方、撮影や写真の共有などに際し、学生団体の方に多大なるご支援をいただいた。一つのことを達成するために多くの人関わっていることを実感し、助け合いの大切さを改めて感じた。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本プロジェクトの反省点としては、①プロジェクト進行に係るメンバー内の役割認識の不足、②役割分担の不備が挙げられる。

プロジェクト進行に係るメンバー内の役割認識の不足に関する具体的な内容として、一つ目に、学年と学部が異なっていることが挙げられる。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、対面でのミーティングを実施することが出来なかった。本プロジェクトは、今年度に発足したこともあり、所属や学年、顔も知らないメンバーから構成されていた。信頼関係の確立がないままに、オンラインでのミーティングによるプロジェクト運営となったため、特に、低学年の学生や留学生は本音で意見をすることが難しく、リーダーや副リーダーが個々人の認識を十分に把握できなかった。また、ミーティングに不参加のメンバーが進捗状況を理解しておらず、次のミーティングまでの準備が不十分となること、その結果として、全体の足並みがそろわないことなどにも波及した。

役割分担の不備では、リーダーや副リーダー、およびリーダーらが依頼しやすいメンバーに役割が偏ったことが挙げられる。各キャンパスの魅力の洗い出し後、紙媒体のパンフレット、ホームページの作成など、中心となるメンバーが多くの役割を担った結果、全体の進捗が滞り、当初の予定である、年度内のプロジェクトの終結は困難となった。直接、顔の見えない関係であるため、他のメンバーの多忙さやプロジェクトへのモチベーションを確認することが難しく、役割を依頼しにくかったと考えられる。こうした状況を受けて、リーダーらが、各メンバーに対し十分な配慮の上で、具体的な困りごとや進捗状況を尋ねるものの、メンバー側からの具体的な反応が得られず、改善策についての十分なコンセンサスは得られていない。

今後は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況なども踏まえながら、徐々に対面でのミーティングを取り入れ、風通しのよい環境づくりを行う必要がある。また、各メンバーの背景（学業面での忙しさ、学年、個人の性格など）を加味し、個別での対話などを通して、メンバー間の役割認識を高めるよう、改善する必要がある。本プロジェクトでは、共有された目標を学年、性格、プロジェクトの経験など、異なるバックグラウンドをもつ学生で進めていくことの困難さや、それに対して、個々人がいかに役割を認識するのか、そのような認識をどのように促進すべきかということ、メンバーが思考する機会となった。そのような困難さを抱えつつも、紙媒体のパンフレットの完成や、各キャンパスの魅力が揃ったことなどは、メンバー全体の成功体験にもつながったと考えられる。今後は、内容のブラッシュアップを中心の目標に据え、プロジェクトの終結に向け、全員で進めていきたい。

7. 実施メンバー

代表者 村林 真衣 (工学研究科 1年)
構成員 野口 朋恵 (医学系研究科 1年) 澤村 遥 (法学部 1年)
小池 裕之 (農学研究科 2年) 水尾 友美 (医学部 3年)
木下 侑穂 (教育学部 1年) 山岡 光流 (農学研究科 1年)
松崎 奈央 (農学部 3年) Chang Ya (医学系研究科 1年)
江田 紗月 (経済学部 3年) 岡村 琴音 (法学部 1年)
鈴木 優那 (医学部 1年)

8. 執行経費内訳書

以下のとおり執行した.

配分予算額		102,500円		
執行額		51,700円		
品目等	数量	単価(円)	金額(円)	備考
パンフレット	1,000	51.70	51,700	
合計			51,700	